

MEET IWAMI



岩美に出会う

岩美を知る

岩美で遊ぶ

鳥取県の魅力といえば、みなさんは何を思い浮かべるだろうか。きっと松葉ガニや 20 世紀梨、温泉や鳥取砂丘を思い浮かべるだろう。わたしたちが訪れたのは、鳥取県の最東部に位置する岩美町である。大自然に恵まれた鳥取県の観光で、今回わたしたちはまだ知られてない多くの魅力に出会うことができた。

とはいえ、岩美町を知る機会が乏しいように感じる。鳥取県全体で年間 140 万人の観光客が訪れているが、岩美町を訪れているのはそのうちの 2 万 8 千人ほどであり、鳥取観光全体の 2% でしかない。さらに、旅行者の内訳を見ると 50 ～ 70 歳代が全体の 62% を占めており、反対に 20 ～ 30 歳代までの若者世代は 18% しかな訪れていない。旅先の選択肢に選ばれていないという現状もある。

岩美町の魅力が隠れた存在のままでは、あまりにももったいない。わたしたちは、岩美町に魅了された学生として、何か学生視点で地域を知ってもらうような提案ができないか。

そこでわたしたちの今回の旅育プロジェクトが始まったのだ。ひとりでも多くの人に岩美町に出会ってもらうために、私たちはこれから 36 の提案をする。

提案の 5 つのカテゴリー

(1) 活かす

民宿・海水浴場・漁港・温泉・鉱山・棚田など岩美町には様々な資源が存在している。しかし私たちは今の岩美町では、それらが上手く活用されていないように感じた。そこで岩美町の魅力である既存の資源を再発見し、それらに工夫を凝らし、有効活用していくことで岩美町の魅力をさらに磨きかける。

(2) 創る

鳥取県を訪れる観光客のうち、高齢者の割合が多いのに対し、若年層の割合が極めて低いのが現状である。従来の資源やイベントだけでは若年層の観光客の獲得は望めない。そこで私たちの若者視点により、若年層も楽しめるような「新しい」ものを作り、新たな岩美町の魅力を創出する。

(3) 結ぶ

岩美町は様々な資源に溢れている。しかし例えば個々の資源が素晴らしくても、「繋がり」がなければ、個別の消費だけに留まってしまう。そこでそれぞれの物理的なつながりをより良くデザインすることで、全体的な効果が倍増するのではないだろうか。それぞれの資源のネットワーク化を図り、岩美町内の回遊性を向上させる。

(4) 伝える

岩美町は情報網が乏しく、地域ごとの特徴や魅力などが顕在化されていないのでどこに何があるのかわかりにくい状態にある。情報を上手く広めることが求められているのではないだろうか。そこで観光客にまだまだ認知されていない岩美町の情報を整理・再編成・発信し、観光客の選択肢を増やす。

(5) 不便さを解消する

若い観光客にとって利便性は大変重要な要素である。しかし実際に岩美町を訪れると、移動手段が乏しかったり、インターネットが繋がっていないかったりと不便を感じる機会が多くあった。観光客目線で岩美町を見つめなおし、観光客がより快適に岩美町を楽しめる仕組みを構築する。

提案番号

提案タイトル

イメージ写真 / イラスト

01. 海辺でビアガーデン

地元の商工会を中心に浦富海岸付近でビアガーデンを行う。鳥取の夏の夜はクーラーが必要ないほど涼しい。また虫たちの泣き声が聞こえるほど静かである。その涼しさの中で、虫の声や波の音を聞きながら飲むビールはまた格別であろう。近くの漁港で捕れた海産物を用いた「海産物バーベキュー」が鳥取ビールのおいしさをさらに引き出す。旅館や民宿から無料送迎バスでビアガーデン会場をつなげばより多くの利用者が見込まれる。実際に鳥取の夜の涼しさを体感して個人的にもぜひやってみたいと思ったので提案した。満点の星空の下、浦富海岸で少し大人な一時を過ごしてみませんか？

提案内容

提案場所を示す地図

提案のジャンル

活

創

結

利

伝

「Blue Park Café」@ 神奈川県中群

大磯海岸では木曜から日曜の夜限定で、砂浜ビアガーデンがオープンしている。経営には、地元の有志によって募られ、まちづくりに取り組んでいる「おおいそ地域振興」が関わっている。海水浴場として知られる大磯海岸には広い砂浜があり、そこは夕暮れから夜にかけては、気温が涼しくなり、大変気持ちがいい。海水浴場を単なる海水浴場として捉えるのではなく、「ビアガーデン」という付加価値を加え、新たな海辺の楽しみ方を提案した事例。

参考事例



01. 海辺でビアガーデン

地元の商工会を中心に浦富海岸付近でビアガーデンを行う。鳥取の夏の夜はクーラーが必要ないほど涼しい。また虫たちの泣き声が聞こえるほど静かである。その涼しさの中で、虫の声や波の音を聞きながら飲むビールはまた格別であろう。近くの漁港で捕れた海産物を用いた「海産物バーベキュー」が鳥取ビールのおいしさをさらに引き出す。旅館や民宿から無料送迎バスでビアガーデン会場をつなげばより多くの利用者が見込まれる。実際に鳥取の夜の涼しさを体感して個人的にもぜひやってみたいと思ったので提案した。満点の星空の下、浦富海岸で少し大人な一時を過ごしてみませんか？



活 創 結 利 伝

「Blue Park Café」@神奈川県中群

大磯海岸では木曜から日曜の夜限定で、砂浜ビアガーデンがオープンしている。経営には、地元の有志によって募られ、まちづくりに取り組んでいる「おいそ地域振興」が関わっている。海水浴場として知られる大磯海岸には広い砂浜があり、そこは夕暮れから夜にかけては、気温が涼しくなり、大変気持ちがいい。海水浴場を単なる海水浴場として捉えるのではなく、「ビアガーデン」という付加価値を加え、新たな海辺の楽しみ方を提案した事例。



02. お外でコンパ！

鳥取の豊富にある自然を最大限に伝えられるようなアウトドアでの合コンを実施する。今流行りの「街コン」（まちを舞台にコンパをすること）からヒントを得た。自然の中にお邪魔してキャンプをしたり海でダイビングや川で魚を捕ったりバードウォッチングをしたり、川下りをするなどのプログラムを用意する。アウトドアというカテゴリーの同じ趣味の者同士が集まり行動を共にすることで、カップルの成立もしやすくなるといったメリットが考えられる。鳥取の良い所を小出しに伝えて思い出を作ってもらい、今回はアウトドアの外コンに来たが次回は違う目的でも訪れたいと思ってもらえるようにする。夜まで実施されるプログラムを組めば宿泊型になって経済面の効果が得られる他、この企画で成立したカップルが思い出の地として再来してくれる可能性は低くはないと考える。



活 創 結 利 伝

長野県〔外コン〕

長野県でも自然を活用したアウトドア系の体験型プログラムで外コンを実施している。地元の企業や団体に協力してもらうことで地域としてのまちおこしに貢献するかたちになっていたり、地元資源をうまく使い、各シーズンにあわせた多彩なプログラムを用意していたりする。カップル成立だけではなく、同じ趣味の仲間づくりもできる点が魅力である。



03. 漁村ホームステイ

観光客や修学旅行生を対象に、漁師さんの家に一泊二日のホームステイをし、漁師の一日を体験する。一泊二日することで早朝の漁業作業など一般的な体験事業では味わえないような漁村独特の生活スタイルを体験することができる。地元の漁師さんに協力してもらうことで、専門性が増すとともに地元住民との交流もでき、より良い体験をすることができる。また日帰り旅行の時に見れる鳥取の昼の顔だけではなく、夜または早朝の鳥取の雰囲気も同時に体験できる。体験を通して漁業に興味を持つ人が現れ、次なる担い手の獲得にもつながるのではないだろうか。漁村同士のネットワーク化を充実させることで様々な体験が可能になり、より内容の濃い体験事業になるだろう。



活 創 結 利 伝

静岡県南伊豆町妻良地区の漁業体験

ここでは修学旅行の受け入れ先として、漁村で民泊を行っている。漁業兼業民宿の漁業関係者の指導のもと、漁業現場の見学や網揚げなどの漁業体験を修学旅行生に対して提供する。夕食時には、その日に実際に捕れた魚を食べながら漁師の方と談話をする。このような学習体験により、子供たちに豊かな経験を与えている。修学旅行生からは大変好評を得ている。



04. 民宿 × マリンスポーツ

鳥取の海は本当に透き通っていて、ダイビングやカヌー、サーフィンにはもってこいの場であると感じた反面、海の近くに民宿があるにもかかわらず、うまくその利便性を利用できていないのでは？と感じた。そこで民宿を海の家として使い（昼食を提供したり、一時的な荷物置き場、シャワーの貸出、送迎、マリンスポーツの道具貸出）で民宿の人と観光客とのつながりをつくりながら、マリンスポーツを楽しめれば良いと思い提案した。そのつながりを強くすることでリピートにもつながる。ダイビングは民宿と連携して何日間か合宿のような形で体験できるようにしたり、カヌーで洞窟めぐりをしたりする。他にマリンスポーツができる場所と差をつけるためには新しいマリンスポーツ（フライボードなど）をつけるのも良いかもしれない。



活 創 結 利 伝

壱岐民宿の会・筒城七浜会の宿

海水浴場から徒歩3分のところにある民宿のあつまりで、マリンスポーツ用の道具のレンタルなども行われており、海の家のように使える。マリンスポーツの道具はたくさんあり、修学旅行生に好評だ。離島の暮らしが一部体験できたり、「海」をテーマにした体験学習ができる。海水浴だけではない海の魅力を満喫することができる。

05. 民宿アパートマン

この提案のいきさつは、現在空き家となってしまう活用方法がない元民宿を利用活用できないか考えたことに始まる。岩美町の宿といえば民宿であるが、宿の形態に幅を持たせ貸し宿として提供したものでもある。

空き家となった民宿を旅行者の貸し宿として提供をする。家主は料理を特に提供をする必要もなく、民宿内には生活に必要なものだけを設置しておく。①旅行者はプライベートな空間を楽しむことができ、家族などで長期間楽しむこともできる。また、②様々な人が同時宿に泊まることもできるので短期間の共同生活ができる場となり、様々な人の交流の場としても活用ができる。様々な特色を持つ貸し宿の提供を行う。岩美町の民宿という商業形態は失ってしまうかもしれないが、新たに補修を行い活用することによって、町並みは維持され建物が残ることによって今後の活用の選択も増える。



活 創 結 利 伝

空き家再生プロジェクト

パリなどのヨーロッパ各地で行われているアパートマンや各地で行われている空き家再生プロジェクトがあげられる。広島県尾道市の「三軒家アパート」は、アパートという共同空間を活かしつつ、アート活動や店舗、カフェなどを取り入れることによってその土地を有効活用した再生プロジェクトである。一部の共同空間は残しつつ新たな使われ方は様々な所で検討されており、それぞれ独自の空間が広がっている。



06. 棚田でアート

日本棚田 100 選に選ばれている「横尾」の棚田を農業という視点だけではなく、アートという視点も持たせる。いつもは棚田として一つの価値があるがアートの展示会場とすることにより非日常が生まれこの棚田に農業以外の付加価値が生まれる。この提案のいきさつは後継者を失いつつある棚田の問題を解決するものであり、棚田を作品の展示場とすることで多くの人に棚田を見てもらい棚田について触れる機会を作るものである。

①夜、暗くなった棚田を様々な色でライトアップをして棚田を照らす。②岩美町の子供を集めてかかしづくりコンテストを行い実際に棚田にかかしを飾る。また、アーティストの作品を展示する機会なども設ける(アーティストインレジデンス)③展示やイベントの後には棚田でとれたものをいかした食事会を行い、農家の人たちの交流も行う。



活 創 結 利 伝

静岡県菊川市上倉沢の棚田「千框」

棚田の魅力を活用した、静岡県菊川市上倉沢で行われている「棚田あぜみちアート」のライトアップを参考事例にした。このイベントの主催は菊川市文化協会写真部菊川フォトクラブであり、NPO せんがまち棚田倶楽部と共に共催して行っている。毎年6月になると、約100本のろうそくを棚田に立てられ、棚田全体をライトアップをしている。灯された光は幻想的な光景を生み出し、訪れた人々に素敵な夕涼みの時を与えている。

07. 山・海ライトアップ

この提案は、期間限定で海や山をライトアップするというものである。山であれば、木にライトを設置する、または山の上にある施設や電波塔などをライトアップさせる。海では砂浜や漁船でライトアップを行う。毎回テーマを決めて行うこととするが、そのテーマやデザインを地元の人々から求めるのもいい。砂の美術館や砂丘、ジオパークなど、他の様々な施設と連携して行うのも面白い。

この提案は、夜のアクティビティをつくった方がいいのではないかという考えからである。関西圏の若者をターゲットにした場合、もう少し日が暮れた後のアクティビティがあってもいいのではないだろうか。また、ただ夜に開いている店をつくる、などというどこに居ても出来るものではなく、鳥取の自然を活かしたアクティビティが良いと考えた。



活 創 結 利 伝

熱海 サンビーチライトアップ

東京タワー・横浜ベイブリッジのライティングを手がけた、世界的な照明デザイナーである石井幹子さんがプロデュースした、日本で初めての砂浜でのライトアップである。熱海の街全体がひとつの“景色”となる様に照明がプロデュースされており、壮大なコンセプトのもと、街が照らし出されている。また照明の一部には、太陽光発電を使用されており、省エネにも配慮されている。

08. おばちゃんレストラン

一寸法師の館でいただいたお母さん方の岩美町の美味しい食材をたくさん使った手作りの料理がとても美味しく印象的であった。そこで提案するのが「おばちゃんレストラン」である。毎日の営業は無理であれば、ツアーの一部に取り入れたり、イベントの開催時などに営業をおこなう。そして観光客だけでなく地元の人達にも親しまれる場とする。

この一寸法師の館を訪れた際に感じたことは周りに棚田や自然がたくさんあるにもかかわらず、この館が建っている周辺には住民の集う場や食事をする場所があまりないように感じたのだ。そこでこのおばちゃんレストランを住民間のコミュニティの場とすることと蒲生周辺に訪れた観光客を狙ったレストランとすることを提案する。

この一寸法師の館の隣には野菜の販売所があるのでそこで観光客が買ったものをおばちゃんレストランで料理してくれるといったコラボ企画も考えることができる。



活 創 結 利 伝

美波町伊座利のコミュニティカフェ「イザリ Cafe」(伊座利の未来を考える推進協議会)

その日の朝に伊座利沖で獲れた魚を使った料理で評判の漁村カフェ。食事をする店がなかった伊座利に平成19年10月にオープンし、オーナーは住民全員。将来は移住者や次の世代の働く場につなげていくため、現在は漁師のおばちゃんたちが運営している。住民のたまり場、お年寄りにも利用してもらえるようにと、作られたコミュニティカフェでもあり、二階は、バス、トイレ、キッチン付の洋間2部屋のコンドミニウム。短期から長期の滞在ができるようになっており、徳島市内や阿南市内などから訪れるリピーターも多い。



09. どんづまり食堂

以前までおばちゃんたちが営業をおこなっていたどんづまりハウスをもう一度復活させ、以前のように食堂として使ったり、料理教室を開催したり、「どんづまり」という名前から悩みを持った人たちが人生の先輩であるおばちゃんからアドバイスを受けながら岩美の美味しいものを食べて元気になろうといった企画をおこなう。

そして以前どんづまりハウスの営業していたのは比較的高齢のおばちゃんたちであったために毎日の営業が困難であったり、ハウス自体を開めなくてはいけないような結果になってしまった。復活後は三重県多気町で実際におこなわれている高校レストランのような学生が携わっている仕組みを整え活気のあるコミュニティの場としていく。



活 創 結 利 伝

元気おばちゃん食堂プロジェクト！（広島県神石高原町）

道の駅で食堂を運営し、地元の新鮮食材を使った安心・安全で懐かしい「郷土料理」をバイキング形式で提供している。「地元雇用の拡大」、「地元経済の創出」、「地元資源の活用」を目的としている。2012年度は、4千4百万円の売り上げと4万人が訪れている。さらに、行政とも連携しており、町内小中学校の課外体験活動に店舗を提供したり、地元の自治振興会、農業法人などの団体と協働し、自社農場の運営や新しい特産品づくりに取り組むなど地域と密着した取り組みを行っている。



岩美町は、山にも海にも近く、豊かな自然と新鮮な海の幸が豊富なことから、大自然の中で遊ぶことのできるアスレチックを作りたい。主に近畿圏の若者や、小学校や中学校の野外活動の場所として定着を狙う。また、鳥取市にきた観光客や野外活動生などを対象にして、民宿と提携し、アスレチック⇄宿泊施設⇄観光地のサイクルを作ること、観光客の獲得を促す。現に、民宿では林間学校の生徒を受け入れているところもあるので、岩美町にアスレチックをつくることで、移動時間の短縮と交通の不便さを解消する。ジオパーク、砂丘などの自然に触れ、さらにアスレチックを楽しむことで娯楽性を増す。この提案では、岩美町の手近の民宿と提携することで、アスレチックという山の自然を楽しんだ後、民宿に行き海の自然を楽しむというぜいたくな計画である。岩美町は関西地方に近いので関西からの若者を誘致する。観光地や目的地に便利な交通網で早く回れば、観光客を増加させ岩美町に滞在の継続を促し、野外活動生の流出を防ぐことができる。海と山の距離が近いことから、この地形の利点を生かしたいと思い、この提案に至った。



活 創 結 利 伝

「森の国アスレチック @ 鳥取」

同じ鳥取県に日本でも有数のアスレチック、森の国が大山町にある。大山町の森の国では、すべての季節にイベントがあり、来場者を飽きさせない。岩美町は関西地方に近いので関西からの若者を誘致する。観光地や目的地に便利な交通網で早く回れば、観光客を増加させ岩美町に滞在の継続を促し、野外活動生の流出を防ぐことを期待する



11. わったいなあったいな作戦

市場をもっと客に回遊してもらうために北海道の市場でなされている「勝手井」と言うシステムを提案する。これは客が井に入った白ご飯を購入し、市場の店舗を回り、食べたい具材をグラム単位で購入し、直接井に盛り、オリジナルの井が食べれる仕組みである。そして、気に入った具材はお土産にするなど購買意欲をさらに向上させる。そのためには客が回りやすいように市場の店舗の配置、飲食スペースが必要。なぜ市場改善すべきなのかと言うと、市場を見た際に、活気がないと感じた。市場の構造自体も客が回るような構造でなく、通り抜けてしまう状態だと感じたからである。また鳥取は海産物を押しているのにいまひとつ客にアピール出来ていないと思った



活 創 結 利 伝

北海道釧路和商市場

北海道の釧路和商市場には「勝手井」という一風変わった名前の海鮮丼がある。市場の中を廻って、その日に捕れた新鮮な魚介類を自分の好みで選び、ご飯に乗せて作る、自分だけのオリジナル海鮮丼である。市場の中には、自分で作った「勝手井」を食べるスペースも用意されており、新鮮な魚介類を、新鮮な状態で食べることができる。市場の中を歩いて廻ることで、市場の雰囲気を楽しみながら食事をとることができる。



12. さいっと梨酒コンテスト

鳥取県の特産品である梨を使用したワインやお酒が数多く販売されていることから、知名度をあげるために、梨ワインやお酒の利き酒コンテストを実施する。梨のお酒は甘く女性にも飲みやすく梨のさわやかな甘いかおりが特徴的である。梨酎ハイや、ワイン、お酒など様々な種類があるが、一同に並べ、実際に消費者の手に届かせる。実際に利き酒コンテストを開催し、梨酒の良さをアピールするために、何が一番あてにいいかなどを参加者に聞くことで、梨酒の味のさらなる改良にもつながり、またお酒のあてとしての商品の発展も狙う。梨のお酒の魅力にふれてもらう良い機会となりうることを期待する。

* さいっとするは鳥取の方言ですっきりする



活 創 結 利 伝

「世界利酒師コンクール @ 東京」

東京で世界利酒師コンクールが行われている。日本酒・焼酎のおいしさを知り尽くし、消費者に日本酒・焼酎を正確に易しく伝えることのできる利酒師を目指す大会が開かれている。このコンクールにならい、梨のお酒のコンテストを提案したい。なぜなら、鳥取名産物の梨を使用したお酒は美味しく、その製品の発展を狙うことで、鳥取県の梨製品の生産向上が望まれる。来場者には鳥取県の特産品である梨のお酒への関心を高め、梨酒との飲み合わせなどを考えてもらう場も設ける。訪問時に、梨の酎ハイをいただき、とてもおいしかったことから、さらに認知度を上げたいと思い提案に至った。



13. 鳥取スイーツコンテスト

アイデアを記した書類で選考され、選ばれたものは実際にコンテストの会場で、一般の客に向けてブースを開き、スイーツを食べてもらう。結果は、会場にきた客と審査員の表で決められる。優勝者の作品は、実際に商品となって売り出される。このコンテストの目的は、鳥取県産の食材の美味しさを知ってもらう事、そして毎年行われる鳥取の大きなイベントとして位置づけ、「鳥取で何か面白い事をやっている」というイメージを付ける。

この提案にいたった理由は、鳥取県は新鮮な食材が多くとても美味しいものがたくさんあるのに、あまり知られていないという事。また、若者向けのアクティビティが少ないという事が主である。コンテストは開催地である鳥取県岩美町が主体で行う。



活 創 結 利 伝

愛媛スイーツプロジェクト

このプロジェクトを通して、生み出された「えひめスイーツ」を県民はもとより、愛媛を訪れる観光客が楽しめるように広く宣伝し、消費拡大を図るのが目的である。コンテストでは、みかんなどの愛媛の特産物を使用することが定められており、学生・プロ・生菓子・焼きがしなど、様々な部門に分かれている。審査には有名なパティシエも入っており、とても大きなプロジェクトになっている。



14. 漁船パレード

漁港を活かしたイベントとして、漁船によるパレードを提案する。地元の漁師の方たちが自慢の漁船を操縦し、観光客や地元の人に披露する。漁船の動きだけでなく、漁のときに行われる行事や慣習も披露するとよい。その際は海岸沿いに観覧席を設け、地元のお酒や特産物をセットのコースにして提供する。試食・試飲のできる販売コーナーも設けるとよい。パレードは、昼と夜の2パターンあるとよい。たとえば昼には、子どもたちや観光客を漁船に乗せてクルージングしたり、技術やスピードを競うレースや、船体や旗などの装飾を競うコンテストも同時開催したりするとおもしろいかもしれない。

夜は船をライトアップしたり、花火を上げたりするとより盛り上がるのではないだろうか。このイベントを通して観光客や子どもたちに漁港への関心を持ってもらい、現地市場の活



活 創 結 利 伝

由良イワガキまつりと漁船パレード乗船会（山形県鶴岡市）

海の日を記念して、この地域を代表する味覚であるイワガキを楽しむイベントと漁船パレードを開催する。イワガキむき実演、海産物直売なども行う。海産物をふるまうだけでなく、実際に収穫を行う漁船を見せたり乗船を体験してもらったり、というのは漁港だからこそできることである。また、それらのイベントには収穫したものを食べてもらうだけでなく収穫が行われる地域にまで足を運んでもらおうという工夫が見られる。



15. 地引き網漁コンテスト

地元の漁師さん協力の下、参加者に実際に地引き網漁を体験してもらい、捕まえた魚の大きさや珍しさを競ったり、捕った魚を使った料理を競ったりするコンテストを開催する。鳥取の名産品でもある海産物。しかし私たちは食卓に並ぶ姿しか見ることがない。それをただ食べるのではなく、実際に地引き網漁を体験することによって鳥取により興味を持ってもらえるのではないだろうか。地域の漁師に協力してもらうことによって、本場の技術を体験することができる。このイベントを通して若者が漁業に興味を持つことが期待される。1ターンの人が増えれば地域活性にもつながる。このイベントが地域活性化のきっかけになるのではないだろうか。地元の新鮮な水産物に親しみ、そのおいしさを再発見してもらうため、同時に捕った魚を使った料理コンテストを開催するとさらにおもしろいイベントになるだろう。



活 創 結 利 伝

「静岡県の地引き網漁体験

静岡県の伊東オレンジビーチで行われてる体験型のイベント。5月から6月にけけての限定開催で、実際の漁業のように、6時から7時までと、早朝に行われている。普段では、地引き網漁でしか捕れない数多くの種類の魚を捕まえることができ、捕った魚は、参加者のお土産として持って帰ることができる。普段はなかなか体験できない地引き網漁体験を通して、伊東の海の素晴らしさを味わうことができる。



16. 海産物祭り / 夜店市

鳥取の食といえば獲れたての海産物。「海産物は獲れたてが一番おいしい」というお話を聞いて、また、地元ならではの美味しい食べ方があるのではないかと、地元住民も巻き込んだイベントを提案する。獲れたての海産物を調理して屋台を出し、港で祭りを行う。地元住民が、新鮮な海産物を地元ならではの / 地元住民オススメの食べ方で提供する。観光客は新鮮でおいしい海産物を楽しむことができ、訪れたからこそわかる魅力に気付ける。夜店にすることで、宿泊客の獲得にもつながる。また地元住民も祭りに参加することで地域の魅力を再確認することもできる。観光客と直接かかわることで、地元の人々のあたたかさも伝わる。毎年恒例の行事となれば、リピーターの獲得にもつながるだろう。



活 創 結 利 伝

利府町海産物収穫祭

利府町須賀地区で収穫された海産物の販売と、地酒利府浪漫の新酒発表即売を行うイベント。利府産の食材で作った鍋や地場野菜、食のプロジェクトで完成した弁当やスイーツ、「利府浪漫」新酒しぼりたての即売など、海産物に限らず利府町の魅力あふれる特産品が目白押しである。めかぶつかみとり大会や親子海苔巻ゲームなど、人々が海産物に親しめるようなイベントも行われる。



17. 海産物詰め放題

「鳥取県には安くて新鮮でおいしい海産物が豊富です！」確かにそう思うが、これだけではどうもパンチが無く、若者や旅行慣れした高齢のターゲットには魅力的なポイントというよりも基本的な項目として捉えられると思われる。そこで考えたのが「海産物の詰め放題」を冠したツアーである。

海産物がおしく、それを売りにした観光を組み立てることは全うなことだとは思われる上、この内容もごくありふれたものではあるが、現地に行った感触として「おいしいでしょう？これで十分に満足でしょう？」というある種の慢心のようなものを感じた。そこにあぐらを掻くのではなく、より活用した方がいいということでの提案を考えた。

またこれをツアーに組み込む意義は、自由な旅行を求める若者にツアーを選ぶメリットをわかりやすく伝えること。お得感を求める旅行慣れした高齢者もターゲットとすることの2点が考えられる。



活 創 結 利 伝

岩手の鮭まつり & 岩手の海産物まつり（盛岡市）

毎年鮭が川に帰ってくる時期である十二月に岩手県盛岡市中津川河川敷（今年は今もりおか歴史文化館）で同時開催。岩手県漁業協同組合と岩手県が主催しており、それぞれ開催数は30回を超える。鮭の驚づかみ体験や鮭のチャンチャン焼きが無料で振る舞われる。毎年恒例の祭りで、実際に新鮮な海産物を味わえる食堂スペースやホタテ、カキ、いか焼きコーナーや、さけなど新鮮な海産物の2日間限りの特売コーナーが設けられる。



18. 岩美・ログハウス

この提案は、岩美町に訪れた観光客を対象に泊ってもらうログハウスである。ログハウスでは、ホテルや民宿とはまた一味違う暖かさを感じられるという魅力と、自分達で好きなように使えるという魅力がある。また、ログハウスと言えば山奥に立地しており、不便で虫が多い、などという悪いイメージもあるが、このログハウスは海辺に建てることとする。なるべく管理・掃除がしやすい設計にし、デザインもお洒落なものにする。海側には、海を一望できるテラスを設ける。民宿は、若者・家族連れでは少し泊まりにくい部分もあると感じたため、海のそばに建てるログハウスを選んだ。新しい若者向けのホテルが建ってしまったら、鳥取らしい海辺の景観が崩れる可能性がある。高さが無く、自然に調和するようなログハウスを、新しい若者向けの宿泊施設として考えた。提案の対象者は特に定まっていないが、空き家への居住者を探すように、ログハウスの管理人も全国から募集し、管理をしてもらう。



活 創 結 利 伝

京都府 京丹後市 海に見えるログハウス

海に見えるログハウスは、窓から日本海（八丁浜海岸）が一望できる一戸建てで、砂浜まで徒歩30秒という近さである。敷地内には2棟のログハウスから織り成す自然空間が満喫出来るスペースと、美しい丹後の景色あり、家族で、友人で、カップルで、またサーファー達にも使用されている。木の温もりと波の音で心も体もリフレッシュできるだろう。



19. みんなで造る鮮やかな公園

湖山池公園で行われる鳥取緑化フェアのイベントの一つとして、来場者の買った花が公園の敷地内に植えられるというもの。花の種類ごとに花壇の敷地を別け、また一つ一つの花壇のブロックを小さくしておくことで自分の花がどこに植えられているかを分かりやすくする。花は一苗から購入、公園内での根付が可能で日ごとの追肥や水やりなどの管理は公園側の管理者が行うが、花の持ち主は管理費用を負担しなければならない。そして自分で植えた花の状況は花壇ごとに随時ネットで確認できるようにし、家に帰ってからも楽しんでもらえるものにする。自分でその土地に花を植え、公園造りに参加するというようなことは日常ではあまり気軽にできることではないので、来場者にとってただ公園を訪れるより思い出に残るイベントになるのではないだろうか。また、自分の花があることで再度公園を訪れる理由もでき、リピーターが増えると考えられる。この提案は鳥取緑化フェアの主催者である鳥取県に対する提案である。



活 創 結 利 伝

八王子市の公園づくり

八王子市では地域住民に親しまれ訪れる人も楽しむことのできる、地域の特色を活かした“個性豊かな利用しやすい公園づくり”を進めるために、公園の管理や公園づくりに関して市民参加を積極的に取り入れ市民と行政が協働して事業を行っている。この事業のなかの一つの“手作り公園事業”は住民が計画段階から参加し、地域の特色を生かした公園を住民主体で行う制度であり、公園づくりを通してコミュニティの活性化やその場を訪れる利用者目線の親しみある公園ができると考えられる。



20. 雪祭りで幻想的な夜を

鳥取観光にはあまり冬のイメージがなく、冬の日本海やジオパークは厳しいイメージがある。大自然の冬の厳しさをポジティブなイメージで捉えたかった。鳥取県で降雪量が多いのは1位智頭町、2位鳥取市らしく、智頭町は昔宿場町として栄えた土地で、今でも国指定の重要文化財や歴史的な街並みが残っている人気の観光スポットである。この智頭町では既に雪まつりが行われていて、自治体レベルでイメージにあったものが毎年行われている成功例であるので、これを旅育の対象地域で行うことはできないだろうか。また、この智頭町の雪まつりは良くも悪くもイメージ通りであり鳥取県の侘寂をよく表しているが、お祭りにはやはり華やかさが大切なので以下の札幌雪まつりの例を手本にしたら良いと思う。市民参加で土台づくりなどを行い、アーティストのお手伝いをしながら地域活性化を目指していく。シーズンに合わせて行い、スキー場で雪だるまコンテストや大きな雪像のライトアップは他府県からも人を呼び込むことができるのではないだろうか。



活 創 結 利 伝

札幌雪まつり

国内外から毎年 200 万人が集まる、北海道が世界に誇る有名なイベントである。大雪像は市民が厳しい寒さを楽しみながら作ることができるとして、毎年過去を上回る来場者を更新し続けている。会場は大通り、つどーむ、すすきのと3つに分かれ、それぞれが迫力のある大雪像、すべり台やスノークラフトを楽しむ会場、毛蟹や鮭を詰め込んだ氷彫刻を楽しむ会場がある。地域資源を上手く活かして、人々に感動を与えるイベントである。



21. 大自然のお風呂で健康美人

鳥取の大自然を生かした温泉施設をつくる。砂丘に程近い場所にメインの砂風呂をつくり、今流行りの岩盤浴と組み合わせることで若い女性客を新たなターゲットに取り込む。若い世代に向けたアプローチが少ないように感じたので、世代の分け隔てなく楽しめる温泉施設を増やしたいと思った。お風呂で温まる or さっぱりするという本来の価値に加えて、汗をかき代謝を促すという今広がりつつある美容に関する価値体系を、美肌効果や冷え性などの効能とともにうまくプロモーションしていく。マッサージやエステを加えれば、疲れも取れて男女に喜ばれるはず。今日の日帰り旅行や少人数旅行の対応策として付加価値をつけ、ゆくゆくは単価を上げられるようにする。入湯料と鳥取の温泉石鹸などをセットで購入していただきたいっぶり体感していただくなどして、体も経営も新陳代謝を上げていきたい。砂丘や砂風呂が難しいのなら、岩盤浴を推して「鳥取の岩風呂」のようなイメージが作れたら良いと思う。



活 創 結 利 伝

鹿児島県指宿温泉

鹿児島県指宿温泉は海岸の傍で行う砂蒸し風呂が有名であり、心地よい波音を聞きながらリラックスできる。砂蒸し風呂は 300 年以上の歴史を持つにも関わらず世界的にも未だに珍しいお風呂であり。ポカポカと次第に体が温まり、砂の重さと温泉の効用で老廃物が大量の汗とともに流れ出て、血液がさらさらになる効果がある。鳥取の砂丘の下には温泉が湧いていないので難しいとされてきたが、こちらは天然の砂丘の砂を温めて効能をアピールすると良いと思う。



22. 方言スローガン

提案のいきさつは「わったいな」などの方言に触れ、この方言という資源をいかした取り組みができないかと思ったことに始まる。方言は地方によって異なり、地域らしさがあり十分な観光資源である。岩美町のやさしい住民らしさをいかした「方言スローガン」を町の中に設置し鳥取全体の PR を行う。

岩意味町住民に方言のスローガンを公募し、募集された様々なスローガンを岩美町の様々な所に飾る。(観光地となる場所) 地域の固有の資源である「方言」をアピールする。

観光客だけではなく現在岩美町に住む、子供たちにも方言という文化を知る機会を与えることができ、地域学習に告げることにも可能である。各所に設置する際には、形式をそろえ統一感を出すようにする。



活 創 結 利 伝

山形県酒田市中通り商店街「方言のれん」

こののれんは商店街の活性化ために染物屋に依頼がありつくられたものである。今では商店街の枠を超え公共施設などにも使われている。また、大阪・新世界の商店街の中には方言（関西弁）を活かしたユニークなポスターが飾られている。「昔は人ゴミで見えへんかったんや 今はボーリングできるけどな」など、自虐的ではあるが新世界の人達の面白さを出している。



23. 学割タウン

鳥取には高速道路の整備により交通の便が良かったことや海と山が近いこと、海産物の安さ、大人数で低価格の宿泊が可能な民宿の多さ、自然の豊富さ学生が喜びそうな資源が多くあってとても魅力的ことが分かった。しかし実際に鳥取の現地の方に紹介して頂かないと自分では鳥取のイメージが失礼ながら砂丘しかなかった。鳥取の魅力に気付けないのはもったいないし、私がもっと早くこの魅力に気付いていれば観光地として利用していただろうなとも思った。そこで学生はとくにお金がないことも有効に活かそうだと考え、この点を活かしての学割での学生誘致を提案する。貸出バスやマリンスポーツ、サンドスポーツも学割で安さを武器にグループ旅行やサークル、ゼミ合宿、小中高等学校の修学旅行や体験旅行で使ってもらう。そして鳥取のおもしろさを知ってもらい個人旅行でのリピーター獲得を目指す。学生からの土産話や口コミによる誘致の拡大も期待できそう。



活 創 結 利 伝

京都府京都市 深草商店街

京都にある伏見区の深草商店街では、若いパワーを取り込んで活気をとりもどそうと商店街で学生が連携して定期的にイベントを開催している。学生と商店街が協働で取り組むことによって新たな発想が生まれることが期待されている。これは商店街という小さな規模であるが、鳥取県という広範囲にも適用できるのではないかな。



24. クロスバイクでサイクリング

ジオパークを散策していて気持ち良い風を感じたりや風景を見ることができた。これを感じずにいるのはもったいない。また自転車で走っている人や車の交通量も少なく、サイクリングするには絶好の場であると思い、クロスバイクでジオパークサイクリングを考えた。最近クロスバイクや一眼レフがお洒落のツールのひとつとなっている。それらを用いれば、若者・またはサイクリング好きの人が集まってくるのではないだろうか。クロスバイクは普通の自転車よりも走りやすいし、交通量が少ないので安全に走れ、山も海も堪能でき、鳥取の自然の豊かさを肌で感じながら走れる。何箇所か一時的に自転車を止められるスペースを設けて、周辺を散策したり写真を撮りに行けるようにし、その写真は他の人も見られるように投稿型にする。鳥取の魅力を感じた観光客の視点から他の人に伝えていければ訪れる人は増えるだろうし、観光者自身が新たな魅力に気付くかもしれない。



活 創 結 利 伝

京都サイクリングツアープロジェクト（上記写真）

普通の自転車・ミニベロ・マウンテンバイク等が行き先に合わせて選べる。レンタサイクルだけでなく京の達人であるガイドと一緒にサイクリングできるツアーもあり、自分の希望にあったサイクリングができそう。旅館や金閣・銀閣などの観光スポットと提携しており、より京都の魅力を感じることができるだろう。さらに車では入れないような路地裏など素顔の京都に出会うことができる。自転車で心地よい風邪を受けながら京都の街を堪能することができる。



25. 町営ジオパークマラソン

山陰海岸ジオパークをスタート地点とし、岩見町内の各名所を回りながら 42,195 km を走る。山陰ジオパークの荘厳な日本海や美しい岩々など良好な眺望を横目に眺めながら走れるコースを整備する。マラソンだけでなく、トライアスロンや駅伝などにも利用可能。レース途中の中継地点に鳥取原産の果物を並べて、ランナーを応援する。町全体で運営を担うことで地域が盛り上がり、元気になる。また新しい施設を建てるのではなく、既存の鳥取の資源を有効活用してイベントを開くことによって環境に悪影響を与えない。またマラソンコースに使われることによって放置されていた草木やゴミなどが整備されるだろう。マラソンなどのイベントに活用されることでより美しいジオパークへと生まれ変わって行くのではないだろうか。



活 創 結 利 伝

日出町まちおこし新春健康マラソン大会

日出町まちおこし新春健康マラソン大会の会場では、マラソンだけではなく、大分県漁協日出支店等の協力による日出町の新鮮な魚や野菜などの「朝市」が開催される。多くの人に朝市で日出町の特産品を楽しんでもらっている。「朝市」の参加者たちは寒さに負けず力走する選手に声援を送っている。マラソンを通して、地域の人と触れ合うことができるイベントである。



26. 歩いて楽しむ岩井温泉

岩井温泉は、1300 年の歴史を誇る山陰最古の温泉である。温泉はもちろん、周辺の町並みも情緒溢れる素敵な空間である。国指定史跡の「岩井廃寺塔跡」、鳥取県最古の擬洋風建築である「旧岩井小学校校舎」、平安時代初に創建されたとされる「御湯神社」など魅力的な資源がたくさんある岩井だが、現在はそれらをうまく活かしてきれていない。それぞれのスポットをうまく結び付け、回遊性を生み出す必要がある。

たとえば、現在使用されていない旧岩井小学校をリノベーションし交流施設にしたり岩井廃寺塔跡周辺の空地はグラウンドとして整備する。温泉周辺の空き蔵をカフェや居酒屋にする。そうすることで、ただ温泉に入るだけではなく、素敵な町並みを歩いて楽しみ、地元の人や食文化とふれあったり自分たちの学習をしたりと、温泉宿を基点に、自由に様々な活動ができる。

一つ一つの資源に役割を設け、それらを関連付けることで地域としての魅力がもっと生まれるのではないだろうか。



活 創 結 利 伝

粟津温泉の再生事業（石川県小松市粟津町）

本地域は歴史的にも貴重な観光拠点を持している地域であるが、近年、観光入込み客数や地域の人口が減少しており、温泉街の空洞化が急速に進展している。こうしたなかで、現在、粟津温泉の再生に向けた取り組みが進められており、総湯、道路、緑地の整備や景観形成の推進等により、粟津温泉街の魅力向上を図る取り組みが行われている。また、粟津温泉の文化財であるかつての演舞場を地域コミュニティの核として再生させようという活動も行われている。



27. コミュニティバスで移動を気軽に！

鳥取での移動手段は電車があまりはしっていないため車が主となる。そのため車を運転できないお年寄りや体の不自由な方、運転が不安な旅行者にとってバスは必要不可欠なものである。鳥取で行きたいところがあっても交通手段がないために断念するということがないように可能な限りまち全体に停留所がある状態にするべきであると考え。そしてそのために既存の乗合バスでは対応しきれていない交通空白・不便地域の解消、施設の利用促進を通じたまちの活性化を目的とした地域住民が主体的に運行するコミュニティバスが必要であると考え。自治体が交通空白地域での住民の移動需要と岩美町を訪れる人が向かう目的地・観光資源を把握し、観光地をつなぐバスのルートから生活ルートが派生するような仕組みがあれば一定の利用者を確保できると考える。この提案は鳥取県・観光文化局に提案する。



和歌山県 くちくまのコミュニティーバス

上富田町の西側を通る国道 42 号線を路線バスが運行している。しかし、町内はバス運行廃止や新住宅地域造成などによる、交通空白地域が点在し、町内の交通手段の確保が求められていた。また、町内の高齢者人口が平成 14 年末現在に 12.6%であり、高齢者に対応する新たなバスサービス事業の展開が期待されていた。この事態に際し、上富田町の発案を受け、明光バス株式会社はコミュニティバスを導入。それにあたり、町民ニーズに応えるための町民アンケートの実施や利用者の要望に応じたダイヤや系統を柔軟に変更する姿勢を持つことによって利用者（特に高齢者）に使いやすい交通手段となっている。



28. 世界に繋ぐ一歩 Free Wi-Fi

岩美町に宿泊した際に wi-fi が使えず、困ったことがこの提案のいきさつである。様々な施設にフリーの wi-fi が使える場所を設置し観光中にも気軽に使えるように整える。また、設置した場所がわかるように Wi-Fi スポットをマップにする。現在では、インターネットの観光情報をもとに旅行をする人も少なくない。そのような人たちにとってインターネットができる環境整備は必須であり、様々な人の情報を載せることができるネット環境は提供側の広報の場となりメリットがある。カフェなどおしゃれな場所に限らず飲食店や民宿、バス停などにも Wi-Fi を設置し気軽にインターネットができる環境を整備する。



やまなし FreeWi-Fi プロジェクト」

山梨県では、年々増加する外国人観光客や国内観光客に対して、無料で使える Wi-Fi スポットを整備している。インターネットを利用する人が多くなったことで、それに比例してインターネットが繋がっていない状況を不便に感じる観光客も多くなってきていた。山梨県と山梨観光推進機構と民間企業の協働によってこのプロジェクトが進められている。



29. 巡回コンビニ

鳥取に行った時、美味しいご飯を食いつつもと違う町の雰囲気を感じたが、やはりいつもの生活に強く根付いているコンビニが近くになくは困る、少し不便を感じる時があった。欲しいと思ったものがさっと買えるような環境があれば、遠くから来た人でも安心できる。そこで巡回コンビニを提案する。車（トラック）で巡回しながらコンビニで買えるようなもの（お菓子などジャンクなものや日用品、野菜など）を近くの家・民宿の班単位で時間ごと、もしくは曜日ごとに販売する。車で配達なのでわざわざ遠くのコンビニまで行かなくても済むし、普段の日常にありふれたコンビニの建物が建てられるわけではないので町の雰囲気は壊されずに済む。もし観光客が何か必要になったときは泊まっている民宿やホテルで頼んだり、近くで巡回している車を見つけることができるように工夫する。



活 創 結 利 伝

生活協同組合

個人や町の班で協同組合に注文し、トラックで持ってきてもらう共同購入制度。まちの規模や土地柄に合わせて運営されており、文化的生活の向上や消費活動の改善を目指している。生協の商品は家族が笑顔を絶やさないようにと安全基準をクリアした商品作りを心がけており、おいしさにこだわりながら産地直送の顔の見える農業を心がけ、産地直送の採れたての商品を販売している。



30. パンフレットのスマート化

私たちがまず感じたことはパンフレットや観光マップの量が多いということであった。たくさんあるためにどれを見たら一番良いのかどれが一番詳しいのかという混乱が生まれた。そこで今回私たちが提案するのがパンフレットのスマート化である。これを一枚持っていれば岩美町の観光については完璧であるというようなパンフレットの作成をおこなうことでたくさんの資料を持ち運ぶことや、どのパンフレットを持ち歩けばいいのかといった観光客の混乱を防ぐことを目的としている。このパンフレットに記載することは岩美の名所、交通について、食事や宿泊施設などを考えている。例えばレジャーランドやテーマパークではパンフレットは一つであり、それを見たらどこに何があるのかがわかる。そういったものを岩美町でも一つ作ってみてはどうかと考えた。現在、日本を訪れる外国人観光客も増えている。そういった外国人観光客をターゲットとしたパンフレットの作成についても考えていく必要があると考える。



活 創 結 利 伝

岐阜・飛騨高山市

岐阜・飛騨高山市では11ヶ国に対応した観光パンフレットとウェブ上の観光案内サイトを作成した。この活動では、行政がパンフレット作りをおこなうのではなく、行政と市民が一緒になってパンフレット作りをおこなった。市民の視点が入り入れられることにより、より詳しい情報を発信することができた。このパンフレットづくりの結果、飛騨高山市では、2006年から3年で観光客が2倍に増大した。



31. 岩美だらず検定

「だらず」は鳥取弁で『あほ、ばか』という意味で、鳥取県のことを知り尽くすと合格できる検定試験を提案したい。難易度によって級を分けることで人々のやる気を促進させる。何かひとつのことが好きすぎることを〇〇ばかといういい方で表現することになり方言を使用することで親しみが込めやすく、認知度を上げ注目を集めたい点からこの検定の名前を考案した。鳥取県の歴史や、観光名所、時事問題などあらゆる分野を取り入れ、地元の人々の地元知識と地元愛の再確認はもちろん、観光客にも、鳥取県への関心興味をもってもらうことを期待する。

現在も日本にはご当地検定は数多くあるが、そのうちのひとつとして有名になることをねらう。現在までは鳥取砂丘検定があるが、砂丘だけでなく鳥取県全体のことについて問題にし、砂丘検定と同様に公式テキストを作り、その中から出題する。検定特有の特典として岩美だらず検定を取得すれば、岩美町に就職する際、進学の際に少し優遇措置を設けて受験の意欲を向上させる。



活 創 結 利 伝

鳥取検定

各地のご当地検定の流行から鳥取県のことについてもっと全国的に関心を集めるための手段とする。各都道府県はそれぞれの名産物や名所、自然などについて問題が出題されている。鳥取県では砂丘検定が開催されていたので、砂丘以外のことについて鳥取県や岩美町の検定もあるとより、鳥取の魅力に触れることができるのではないだろうか。



32. 瑞泉乾杯でお得！

鳥取の地酒である瑞泉をより知名度を上げるために割引制度を提案する。

鳥取の飲食店で瑞泉を取り扱い、客に対して（特に団体客）が乾杯をする際、瑞泉で乾杯すると、食事代が引き下げられる。そして、そのシステムを導入した飲食店に対し、瑞泉の仕入れ数に応じて仕入れ値を割引制度にする。他にも、新酒の時期にキャンペーンを行うことも提案する。また日本酒ハイボールやみぞれ酒など様々な飲み方を時期に応じて推奨する。この提案のいきさつとして、最近若者の日本酒の離れが理由である。だが、実際にお酒が苦手な人が飲むと飲みやすいと聞いた。だからこそ、瑞泉をもっと若者に広めたいと考えた。そのためには飲むきっかけ、飲みやすい飲み方を作るべきだと思ったからである。



活 創 結 利 伝

京都市「乾杯条例」

京都市で全国初「京都市清酒の普及の促進に関する条例」と日本酒の乾杯条例が制定された。目的は京都から清酒による乾杯の習慣を広めることにより、清酒の普及を通して日本人の和の暮らしを支えてきた様々な伝統産業の素晴らしさを見つめ直し、ひいては日本文化の理解の促進に寄与することとしており、地酒の普及・促進を目的としている。また京都市以外にも佐賀県や、兵庫県西宮市でも制定されている。鳥取でも地酒を守るために普及・促進に取り組むべきである。

33. もずくスイーツ

もずくを使って、アイスやケーキなどを作ってご当地スイーツを広めることを提案する。

またスイーツコンテストで鳥取県内のパティシエから一般市民も参加し、開催する。その中の優勝スイーツが実際に売出されるようにする。またスイーツだけではなく、ディップにするなど意外な加工法で注目されるようにする。この提案のいきさつとして、もずくには男もずく、女もずくがあり、一般的に女もずくが食べられているが、鳥取では男もずくが名産である。女もずくとは違い、独特の食感がある。しかし、男もずくも知名度も低いために、ユニークな方法で知名度を上げるきっかけとしてもずくスイーツに至った。



活 創 結 利 伝

沖縄県 女もずく

沖縄では女もずくが名産であり。認知度のために「もずく料理コンテスト」を開催している。主催はもずく加工会社がしている。最優秀、優秀、入賞部門とあり、各部門ごとに賞金がある。第5回目はドリンク部門、スイーツ部門、ドレッシング部門と分かれて応募できる。また沖縄県もずく養殖業振興協議会では毎年4月の第3日曜日は「もずくの日」としている。この日にはイベントを開催しており、もずくマンとキャラクターまで作られている。



34. 広まれ鳥取食文化！

リゾート地のイメージではない鳥取で高級料理を食べるのも悪くはないが、安くて美味しい、鳥取らしいものが食べられたほうが思い出に残るだろうし嬉しいような気がする。牛骨ラーメン・素ラーメン・鳥取カレー・あごカツカレー・いかすみカレー・とうふちくわ・白いか・鯉めし・じんたん寿司などのいわゆるB級グルメと言われる食べ物が鳥取には結構ある。なかでもラーメンやカレーは特に流行っているし身近にあるジャンルなのでとつき易そうだと考えられる。

鳥取のグルメを調べると知らないおいしそうなのが結構あって独特でおもしろそうだがバラバラにブログなどで紹介されていて見つけにくいいため冊子やホームページを作るなどしてまとめ、周知をはかりたい。その際はマップを作るとわかりやすいと思う。砂丘や海などの鳥取のなかでも人が集まるメジャーな観光地の近くでB級グルメ博や出店の開催をして多くの人に存在を知ってもらいたいかもしれない。



活 創 結 利 伝

福井県小浜市

小浜市では、食のまちづくり条例というものを制定している。条例から派生した取り組みとして、まちの将来を担う若者むけの食育事業を実施し地域の食文化のアイデンティティーを強く形成しているようだ。その結果、食育がネットで検索されるなど有名になり始め、知名度が向上するにつれ観光客も増加しているという研究結果がある。



35. アニメツーリズム

近年のアニメ文化・市場の急速な拡大をどうにか観光に使えないかと考えた。萌え・オタク文化市場の消費者は一人当たりの単価も高く、その市場規模は2011年には、8000億円を超えるという指標も出ている程ブームとなっている（Business Media 調べ）またその48%はアニメ市場が占めている。そしてなにより萌え・オタク文化市場の消費者は情報の拡散能力も高いため非常に効率のいい観光客になりうる。そこで、鳥取の岩美町田後地区が舞台として描かれたアニメ『Free!』が記憶に新しいが、こういった機会を活用し「聖地巡礼」と呼ばれるアニメのファンの舞台訪問などを看板に掲げたツアーを作るのも面白い。また、アニメの舞台に使われるように県や自治体からアニメの製作側に売り込んでいくこと、また県側がキャラクターを作り出しアニメ化を目指すことなどで、こうした機会を増やすことも出来るのではないだろうか。



活 創 結 利 伝

足利ひめたま制作委員会（足利市商工会議所）

足利ひめたま制作委員会が取り組む活動で、ひめたまというキャラクターをつくり、アニメ化も視野に各種イベントや観光整備を積極的に行い活動している。キャラクターやイベントによる観光客の増加は少しずつ現れてきているという。しかしこのPJの大きな問題点として圧倒的な資金不足にある。これは自治体が直接関与していないこともあり、組合員の出資による活動であるため起こっている。目標であるアニメ化には膨大な費用が必要なため、現実的に自治体単独でのアニメ化は不可能にしる、まちづくりとして大きく活用するためには自治体の積極的な関与が必要不可欠であると考えられる。



36. 手の届くプチ贅沢、鳥取エキスを

食品からそうでないものまで幅広く販売。鳥取観光協会を通じて、提携する各温泉のアメニティグッズや食材に可能な限り商品を指定してもらう。お土産のしじみやわかめにお湯を注いだとき、見たこともないような黄色いだしが出てきたことにたいへん驚き、期待以上の鳥取エキ스에感動したので広めたいと思った。温泉成分の入った入浴剤や石鹸など商品を増やしていき、手の届くプチ贅沢ができれば、生活の質も鳥取の認知度も上がるはずだ。鳥取観光コンベンション協会のお土産の紹介を見たところ、食品や地酒は多くあったが石鹸の例は1つしかなく、同じように入浴剤の開発を広げて欲しいと思った。写真に見られるのが鳥取温泉の石鹸（800円）であるが、有名どころの神戸有馬温泉のものとは比べて個性を出しきれていない、又は作りきれていないように思う。パッケージや石鹸そのもののデザインにもうひと工夫があれば良いのではないだろうか。



活 創 結 利 伝

カメ印美肌石鹸（神戸有馬温泉）

商品名に「美肌」と入っていることから効能が伝わりやすく、高級感のある透明で洗練されたシルエットは素晴らしい。実際にリピート率が多いことや、神戸セレクション2009に選ばれていることなどキャッチフレーズも優れている。女性の心をうまくつかもうとしている良い商品である。